



嘉永新版

四季詩歌集

市板



四季詩歌集

○目錄

吉書始 立春。早春。春興。子ノ日。
 春 梅。鶯。三月三日。霞。柳。行春。
 櫻。落花。
 夏 首夏。端午。納涼。蓮。郭公。螢。
 蝻。扇。
 秋 立秋。七夕。秋興。八月十五夜。
 九月九日。菊。
 冬 初冬。霜。雪。氷。
 通計三十一品畢

四季詩歌集

春之部

吉書始
 立春のこころ
 早春のこころ
 春興のこころ
 子ノ日のこころ

梅のこころ
 鶯のこころ
 三月三日のこころ
 霞のこころ
 柳のこころ
 行春のこころ

櫻のこころ
 落花のこころ
 首夏のこころ
 端午のこころ
 納涼のこころ
 蓮のこころ
 郭公のこころ
 螢のこころ
 蝻のこころ
 扇のこころ
 立秋のこころ
 七夕のこころ
 秋興のこころ
 八月十五夜のこころ
 九月九日のこころ
 菊のこころ
 初冬のこころ
 霜のこころ
 雪のこころ
 氷のこころ



あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 山 蟬 鳴 考 天 樹 幻

あきのちやうりゆう せいふふのせいふふ せいふふのせいふふ
あきの風 会 梅 雨 月 蟬 夜 送 春 秋

あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 不 消 雪 終 年 寒 風 秋 風

あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 入 懐 中

あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 入 懐 中

あきの せ
秋 之 初

あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 初 秋

あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 初 秋

セタ

あきのせ せんせん みのて せいふふ せいふふ
あきの風 初 秋

去冬後浪復舊海以烟波流引歌清
正冬のしほてひなふのりどあつちのしほとこらうらきとえげつとあつちとあつちと
 因流激波逐日進意期行日飲為珠
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 天付何とよりいあふ池のゆきあふ流る代りあつちとあつちとあつちと
あまののりあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 福ある秋のあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 天付川瀬あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

秋興 林間篠酒送君客石上 願は 拂縁者
秋興 林間 篠酒 送君 客石 上 願は 拂縁 者
 由奉感思身社七笑彼因あれ草
由奉 感思 身社 七笑 彼因 あれ草
 三衣衣帯りほ五三五宮室お故人心
三衣 衣帯 りほ 五三五 宮室 お故人 心
 後奉は海唐唐唐唐唐唐唐唐唐唐唐
後奉 は海 唐唐唐唐唐唐唐唐唐唐唐
 同

九月九日
秋のちとよしはるかにあけられけり
嘗て社は神楽を奉る事あり

霜降のちとよしはるかにあけられけり
霜降のちとよしはるかにあけられけり

霜降のちとよしはるかにあけられけり
霜降のちとよしはるかにあけられけり

霜降のちとよしはるかにあけられけり
霜降のちとよしはるかにあけられけり

冬之初

初冬
十月の南無無量寿菩薩を奉る事あり

十月の南無無量寿菩薩を奉る事あり
十月の南無無量寿菩薩を奉る事あり

十月の南無無量寿菩薩を奉る事あり
十月の南無無量寿菩薩を奉る事あり

四季の月名
春の月名
夏の月名
秋の月名
冬の月名

四季の月名
春の月名
夏の月名
秋の月名
冬の月名
四季の月名
春の月名
夏の月名
秋の月名
冬の月名
四季の月名
春の月名
夏の月名
秋の月名
冬の月名

月	の	異	名
正月	初春	立春	桐月
二月	仲春	雨水	梅月
三月	暮春	春分	桃月
四月	初夏	立夏	柳月
五月	仲夏	芒種	菖蒲月
六月	暮夏	夏至	荷月
七月	初秋	立秋	桐月
八月	仲秋	処暑	桂月
九月	暮秋	秋分	菊月
十月	初冬	立冬	芙蓉月
十一月	仲冬	小雪	山茶花月
十二月	暮冬	大雪	梅花月

芝神明前三島町
甘泉堂
和泉屋市兵衛版
天保十五年辰再板

